

4月新刊のご案内

世界41カ国で250万部超え！ マン・アジア文学賞受賞の名作
『母をお願い』の申京淑、待望の新作



装画：早瀬とび 装丁：アルビレオ

内省的な孤独感や死生観を詩的な文体で描き、韓国で数々の文学賞を受賞した作家による、胸を打つ傑作長編

父のところに 行って来た

申京淑(シン・ギョンスク) 著／姜信子・趙倫子 訳

定価：2,640円(本体2,400円+税10%) 発売日：2024年4月18日 発行所：アストラハウス
ISBN978-4-908184-50-5/C0097/四六判/上製/アジロ綴じ/472ページ

《どこにも記録されぬまま、ちっぽけな埃のように消えていく、匿名の父。過酷な現代史の渦が残した傷を背負って生きてきた父に残されたものは、消滅寸前の肉体と、そして……》

主人公の「私」は中学生の一人娘を事故で失い、かたくなな心を持って余している孤独な女性作家。高齢の母がソウルの病院に入院したため、故郷に一人暮らしとなった父の世話を兄弟たちに頼まれ、老いた父に向き合う。「アボジ(お父さん)」と呼びかける父は一九三三年生まれ。植民地期、朝鮮戦争、南北分断、軍事独裁、民主化抗争といった朝鮮半島の激動の時代を生きてきた。「苦難の時代をきた人」……そんな「匿名の存在」でしかなかった父に、あらためて寄り添うことで「私」が見出す、「普通の父」の人生の物語。

【著者プロフィール】 申 京淑 (Kyung-sook Shin)

1963年、全羅北道井邑市生まれ、ソウル芸術大学文芸創作科卒。22歳で文壇デビュー。詩的で独特な文体で人気を博し、韓国文学を牽引する作家となる。李箱文学賞、現代文学賞、万海文学賞、東仁文学賞など受賞多数。2008年に発表された『母をお願い』(安 宇植 訳、集英社文庫)は、世界41カ国で出版され、252万部の大ヒットとなった。2011年、同書でマン・アジア文学賞受賞。そのほかの邦訳作品に『離れ部屋』(安 宇植 訳、集英社)、津島佑子との往復書簡集『山のある家 井戸のある家』(きむ ふな訳、集英社)、『月に聞かせたい話』(村山俊夫 訳、CUON)、『オルガンのあった場所』(きむ ふな 訳、CUON)などがある。

ご注文は アストラハウスまでFAXでお申し込み下さい。 **FAX:03-5464-8739**

※取引販売会社：トーハン、日本出版販売(日販)、楽天BN(旧大阪屋栗田) ※返品は常時お受けいたします。

アストラハウス営業部

〒107-0061 東京都港区北青山3丁目6番7号青山パラシオタワー11階
TEL:03-5464-8738 Email: sales@astrahouse.co.jp HP: astrahouse.co.jp

新刊委託

書店様番線印

ご注文数

冊

ご担当者様

父のところに 行って来た

申京淑(シン・ギョンスク) = 著／姜信子・趙倫子 = 訳
定価 2,640円(本体2,400円+税10%)
ISBN:978-4-908184-50-5/C0097

ア
ス
ト
ラ
ハ
ウ
ス